～２年生修学旅行特集号～

Newspace

郡山東高校新聞 速報版８１号

編集・発行
郡山東高等学校新聞部
発行人　古川　美羽
編集人　佐久間怜加
〒963-8832　福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898
FAX 024-932-1404

コロナ禍での修学旅行 友達との交流深める

先月27日から29日にかけて、2年生の2泊3日の修学旅行が実施された。本来は関西方面への旅行が予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で、岩手・秋田・宮城方面に延期・変更された。マスクの着用や検温などの新しい生活様式のもと、2年生は友達との交流を深め、有意義な3日間を過ごした。

1日目 岩手の自然を楽しむ

修学旅行1日目は、郡山駅からバスで約5時間かけ、岩手県岩手郡雫石町にある小岩井農場を訪れた。バス内では、バスガイドの話を聞いたり、映画を観たりして移動中の時間を過ごした。

小岩井農場では、まず初めに昼食のジンギスカンを食べた。ジンギスカンは食べ放題で、数人に分かれ自分たちで焼いて食事をした。中にはおかわりをする生徒もおり、友達と会話をしながら楽しむ姿が多く見られた。

食事の後は、文系クラスと理系クラスに分かれ、小岩井農場を巡るバスツアーと自由散策をした。

バスツアーでは、小岩井農場の歴史や建物などの説明を受けた。実際にバスから降りて牛舎にいる牛を見たり、クラス写真の撮影をしたりした。

自由散策では、売店で買ったアイスやシャーベットなどを食べ、馬や羊を見て満喫した。トロ馬車に乗ったり、乗馬体験をしたりする生徒もいた。乗馬体験をした渡部実里（わたなべみのり）さん（2年）は「馬に揺られる振動がすごかったが、景色も良くて楽しかった。白馬の王子様になった気分だった」と笑顔で話した。ほかにも羊の被り物を売店で買って身に付けていた人や、友達と写真を撮って楽しむ人も多くいた。

バスツアーと自由散策の後には、土産を買う時間が設けられた。今回の旅行では、GoToトラベルキャンペーンの一環で、1人当たり1100円分の地域共通クーポンが配られた。1枚の金額は1000円で11枚すべてを使い切った生徒もいた。

夕食は宿泊先の雫石プリンスホテルで食べた。天候に恵まれ充実した1日目となった。（湊飛）

↑東高のために打ち上げられた大曲の花火

←ジンギスカンの食べ放題を楽しむ東生

2日目 東北独自の文化を学ぶ

修学旅行2日目は、まず岩手県奥州市にあるえさし藤原の郷を見学した。えさし藤原の郷は日本で唯一平安貴族の住宅や、伽羅御所、経清館、清衡館、政庁などの建物があり、多くの映画やドラマの撮影に使用されている。伽羅御所では、平安貴族の衣装の着付をして写真を撮影したり、ハマグリの絵付を体験したりする生徒がいた。また、政治や儀式を行っていた政庁を再現した建物の前で記念写真を撮影する生徒も多く見られた。

さらに、えさし藤原の郷にはトリックアート平安の館やロケ資料館があり、平安時代の商店や民家を想定して作った町並みも再現されている。園内を散策できる時間が短かったが、限られた時間の中で生徒たちは行きたい場所を巡って楽しんだ。

次に、辰子姫の伝説が残る秋田県仙北市の田沢湖を訪れた。ここではクラスの集合写真を撮り、その後は自由時間を過ごした。自由時間では売店で土産を買ったり、ソフトクリームやみそで味を付けたきりたんぽを食べたりしている生徒が多かった。また、集合写真を撮った砂浜では、友人同士で景色を撮影している生徒や、水切りなどをして楽しんでいる生徒もいた。

田沢湖見学のあと、角館で自由行動の時間が設けられた。角館には「みちのくの小京都」と言われるほど伝統的な街並みが広がっている。2年生は武家屋敷を見学したり、紅葉で赤く色づいた木々の写真を撮ったり、お土産を選んだりして自由時間を楽しんだ。通りを走る人力車を利用する生徒もいた。ここでは文系と理系が同時に見学を行うことができたため、クラスの垣根を越えて散策を楽しんだ。

角館で自由行動をした後は、大曲の河川敷で有名な大曲の花火を鑑賞した。花火のプログラムは今回特別に大曲の花火師が用意したものであり、この花火鑑賞を楽しみにしていた生徒も多い。開会式のあと、LiSAの人気曲「紅蓮華」に合わせた花火の打ち上げを行い、その後で花火師による説明と共に花火を鑑賞するレクチャー花火が行われた。高度な技術の花火が打ち上げられた際には生徒から歓声や拍手が起こった。そして、GReeeenが歌う連続テレビ小説「エール」の主題歌「星影のエール」に合わせて花火が打ち上げられ、会場は大いに盛り上がりを見せた。

そこでプログラムが終了するかと思われたが、その後にサプライズが行われた。修学旅行中に誕生日を迎えた4名の生徒に花火が打ち上げられたのだ。誕生日を祝う声や拍手が鳴り響き、とても柔らかい雰囲気で花火鑑賞が終了した。修学旅行中に誕生日を迎えた河野将也（こうのまさや）さん（2年）は「まさか誕生日の人のために花火が上がるとは思わなかった。修学旅行の思い出が一つ増えた」とうれしそうに語った。（助、格）

←えさし藤原の郷にある政庁

3日目 歴史に触れる体験を

修学旅行3日目は、岩手県平泉町にある中尊寺を見学し、その後宮城県石巻市を訪れ、震災、防災学習を行った。

中尊寺では、金色堂や本堂、讃衡蔵を見学するクラス、集合写真を撮るクラス、お土産を購入するクラスに分かれ順番に見学をした。中尊寺には3000点以上の国宝、重要文化財があり、ユネスコの世界文化遺産に登録されている。金色堂は堂全体が金箔で覆われており、迫力のあるものだった。生徒はおみくじを引いたり、お守りを買ったりして、歴史に触れながら各々見学を楽しんだ。

次に石巻市を訪れ、雄勝ローズガーデンファクトリー、大川小学校、南浜町、門脇町を見学するクラスに分かれて、震災を経験した現地の人やボランティア団体から話を聞いた。実際に震災遺構を訪れ、周辺をバスと徒歩で見学した。南浜町、門脇町を訪れたクラスは「3・11みらいサポート」が運営する「南浜つなぐ館」で震災前の町を再現した模型や、プロジェクターで震災当時の状況を動画で見ながら説明を受けた。被災地を訪れ当時の話を聞くということは、普段できないことであり、私たちにとって貴重な経験となった。修学旅行に参加した久能士和（くのうとわ）さん（2年）は「楽しく3日間を過ごせた。修学旅行を通しよりみんなのことを知れた」と笑顔で語った。（総来）

→中尊寺を観光する東生

↑秋田県にある田沢湖

→大川小学校を見学する東生

女子バレーボール 二大会優勝を果たす

女子バレーボール部は、9月21日から22日にかけて行われた春高バレー県南地区大会と10月10日から11日にかけて行われた県南地区総合バレーボール選手権に出場し、見事優勝を果たした。

また、女子バドミントン部は第57回福島県高等学校新人戦体育大会バドミントン競技県中地区大会で、相川（あいかわ）・伊藤（いとう）組がベスト16で県大会出場を決めた。また、剣道部は福島県高等学校新人体育大会剣道競技県南地区大会で女子団体が7位となり県大会出場を決めた。

さらに、演劇部は第71回県中秋季地区コンクールで優良賞とスタッフワーク賞を受賞、個人では熊澤朋香（くまざわともか）さん（2年）が創作脚本賞、天野環那（あまのかんな）さん（2年）が優勝演技賞を受賞し、総合5位となった。

主な大会結果は以下の通り

バレーボール

【女子】

●福島県高等学校体育大会バレーボール競技代替大会
郡山東2-0学法石川
郡山東2-0田村
▽準決勝
郡山東0-2あさか開成
郡山東0-2白河　4位

●県南地区1年生大会　3位

●春高バレー県南地区予選大会
＝優勝

●県南地区総合バレーボール選手権
＝優勝

水泳

●福島県高等学校体育大会代替
【女子】
▽100M平泳ぎ
吉田涼　9位
▽200M平泳ぎ
吉田涼　9位

卓球

●福島県高等学校新人戦卓球競技県中地区大会
【男子】
◆団体　5位
＝県大会出場
◆シングルス
真壁響己
田中隼人
＝県大会出場
【女子】
◆団体　6位
＝県大会出場

バドミントン

【女子】

●第57回福島県高等学校新人戦体育大会バドミントン競技県中地区大会
◆個人
相川・伊藤組　ベスト16
＝県大会出場

弓道

●福島県高等学校新人体育大会
【男子】
◆個人
槌谷柊紀
長嶋峻矢
上石達弥
安倍貴寛
渡邊祐太
＝準決勝進出
【女子】
◆団体
今野結唯・鹿又悠莉
鈴木礼彩・金澤遥希
大島愛黎・小川花音
渡部実里　4位
◆個人
今野結唯
鈴木礼彩
川名玲那
高橋希園
＝準決勝進出

剣道

●福島県高等学校新人体育大会剣道競技県南地区大会
【女子】
◆団体　7位
＝県大会出場
◆個人
金澤葵
＝県大会出場

演劇

●第71回県中秋季地区コンクール
優良賞
スタッフワーク賞
◆個人
創作脚本賞　熊澤朋香
優秀演技賞　天野環那
総合5位

各部活動に対し、取材のご協力、心より感謝申し上げます。

東照手記

中学時代の私は常にマイナス思考で、自分に自信が持てずにいた。卓球部の活動でもまだ戦ってないうちから「どうせ私なんか負けるに決まっている」と思い込み、途中であきらめてしまうこともあった▼中学3年生の春、私は中体連県大会出場を目標に毎日の練習に一生懸命取り組んでいた。今まで県大会に一度も行ったことがなかったため、引退前最後ということもあり、やる気に満ちあふれていた。ある日、顧問の先生から大会のトーナメント表を渡され、自分の対戦相手を見てみると、新人戦で完敗した相手だった。私は今までのやる気がどんどん抜けていくように感じた▼迎えた中体連当日。県大会出場へのやる気はほとんどなくなり、勝つことをあきらめていた。しかしそんな中、部活の仲間からミサンガと手紙をもらった。手紙には「自信を持って！絶対に勝てる！」などたくさんの応援がこめられていた。それを読んだ瞬間、消えかけていたやる気が息を吹きかえしたように私の中に現れた。最初からあきらめるのではなく、自分の力を最大限発揮しようと思えた。結果は惜しくも負けてしまい県大会出場の夢は叶わなかったが、仲間の大切さを知ることができた。「人生の財産は友である」という言葉があるように、友達はなくてはならない存在だと身に染みて感じた▼新型コロナウイルスの影響により修学旅行も規模が縮小されたが、クラスの仲はより深まったように感じる。3年0学期に入り、高校生活も残り1年半となった。これからテストに受験など多くの壁が待ち受けている。クラスや部活動の友達と最後まで楽しい思い出を作っていけるように一日一日を大切に過ごしていきたい。（クッキー）